

2023年9月17日

「十字架の愛」

コリントの信徒への手紙 13:1-13

竹島 敏牧師

世間には愛、という言葉があふれています。しかし、4節以下に記されているような、聖書が語る愛の内容と愛ある人の行い、振る舞いは、世間でいう愛や私たちの日常の姿とは、随分と隔たりのあるものなのではないでしょうか。愛とはすべてを忍び、信じ、望み、耐える、このようなことは、人には到底、完成させることのできないものです。それでも、私たちには不可能な、しかし最高のこの道を行きなさいと、聖書は私たちに促しているのです。確かに私たちが主イエスの十字架の愛について知っていることはほんの一部分で、しかも鏡に映っているものをおぼろげに見ている感じでしかないのです。けれども世の終わりの時には、そのイエスの愛をはっきりと、完全に知り、味わうことができるようになる、だから、その時に向かって、イエスの愛をどこまでも追い求め、実践してゆきなさい、と言われているのです。

私たちはどこまで行っても、愛することにおいて、つまずきだらけの生涯を送っていくしかないのかも知れません。けれども、その人の痛み、苦しみを共に痛もうと努める時、「それこそが愛なのだ」と、主は私たちに告げてくださいます。愛することにおいて、具体的には何も状況を変えることができなかつたとしても、誰かのために痛みつつ祈り続けるならば、主はそれを「私の人々を愛した愛、十字架の愛」と呼んでくださり、そこに新しい希望をきつと、授けてくださるのではないのでしょうか。この、主が告げる愛に堅く立って、今週もここから歩き出してゆくことができますように。